

利用者属性の違いから見た駅前広場に求める施設の特徴把握

～小諸駅を対象にして～

令和7年2月 武内 裕哉

要旨

目的

日本では、少子高齢化、人口減少などの社会問題の対策として、コンパクト+ネットワークが目指され、拠点として駅を整備する動きがある。特に、まちづくりの中核を担う場所として、駅と周辺市街地を一体的に捉えた駅まち空間が注目されており、その活性化のために施設計画が重要である。本研究では駅まち空間に着目し、駅利用者の属性ごとに駅前広場に求める施設の傾向を把握し、利用者属性に適した施設計画を導くことを目的とする。

方法

本研究では、駅を拠点として活性化を目指す小諸駅を分析対象とし、駅利用者アンケートを実施した。アンケートでは利用者の属性を把握したうえで、駅前広場に求める施設の利用したい度合い（以下、利用意向）について5段階で評価を依頼した。利用者属性と利用意向について、クロス集計と残差分析を実施することで、各施設において、利用者属性ごとの利用意向の特徴を明らかにする。

結論

分析結果から年齢、平日の利用頻度、利用目的の3属性が、施設の利用意向に大きく影響を与えることが明らかになった。また、施設は、快適性が重視されているものと利便性が重視されているものに分けられる。快適性が重視されている施設は、主に中年層、低頻度、余暇目的の利用者に支持され、利便性が重視された施設は若年層、中頻度、高頻度、生活目的の利用者に支持される傾向があることが明らかになった。さらに、特定の属性で利用意向が高い施設は、異なる属性に向けた複数の施設と組み合わせることで幅広い利用者呼び込めると考えられる。一方、複数の属性で利用意向が高い施設は単独でも多様な利用者呼び込める可能性がある。これらの結果から、駅前に多様な利用層を呼び込むために、利用意向に影響を与える属性を考慮した施設計画が求められることが示された。

指導教員 森本 瑛士 助教